

データの重要性で選ぶVPN

コストと安全性のバランスの見極めが導入のポイント

このコーナーは、注目の製品やサービスについて、それを支える技術や市場動向の解説(セミナー)と具体的な商品を紹介(展示)する、バーチャル展示会。今回のテーマは「VPN」。セキュリティへの関心の高まりとコストとの関連で、新規導入ばかりではなく借り換えの機運も高まっている。ここでは、最近の動向とサービスの選択について解説する。

text: 狐塚 淳

VPN導入の前提にある ネットワークの途切れるところ

すでに社内LANは多くの企業にとって当たり前なものになっている。『インターネット白書2005』によれば普及率は90%をはるかに超えており(図2)、あらためて社内LANとは何かという説明を必要としている人はほとんどいないといっていよう。

メールとファイル共有(場合によってはグループウェア)を基本とする社内LAN環境を当然のものと思って業務に利用している人は多く、すでにLANのないビジネス環境を想像することさえ難しいという人も多いのではないだろうか。

ところが、LANを利用したビジネスデータの流れが途中で切れるケースは少なくない。

物理的な建物が異なる場合、イーサネットケーブル接続が不可能になる。たとえば、業務拡張で通りをはさんだ一室も借りたといった時点で、既存の社内LANは使えなくなる。距離的に短ければ無線LANという選択肢もあるかもしれないが、それをセレクトするかどうかはまた別の問題になる。

また、もともと業態的に多数の店舗を持つフランチャイズや、本社と工場が仕事の都合上分かれている製造業など、建物が別々になっている同じ会社はけっこう存在する。

大企業であれば、拠点間を専用線で直結するという方法もあるだろうが、規模の小さい会社では通信部分でのそんなコスト負担には耐えられない。

せっかく企業内情報のデジタル化を進め、ファイルフォームを完備し、サーバー経由のやりとりをしていたのが、その通信経路内に一部ファクスが復活したら、データの再入力や、物理的なファイリングの手間がビジネス工数を圧迫することになる。

かといって、Eメールに重要なファイルを添付してそのまま送信するのは、安全性の面で心配がある。

こうした異なる建物や拠点間同士でのLANの機能を代替するのが、VPNなのである。

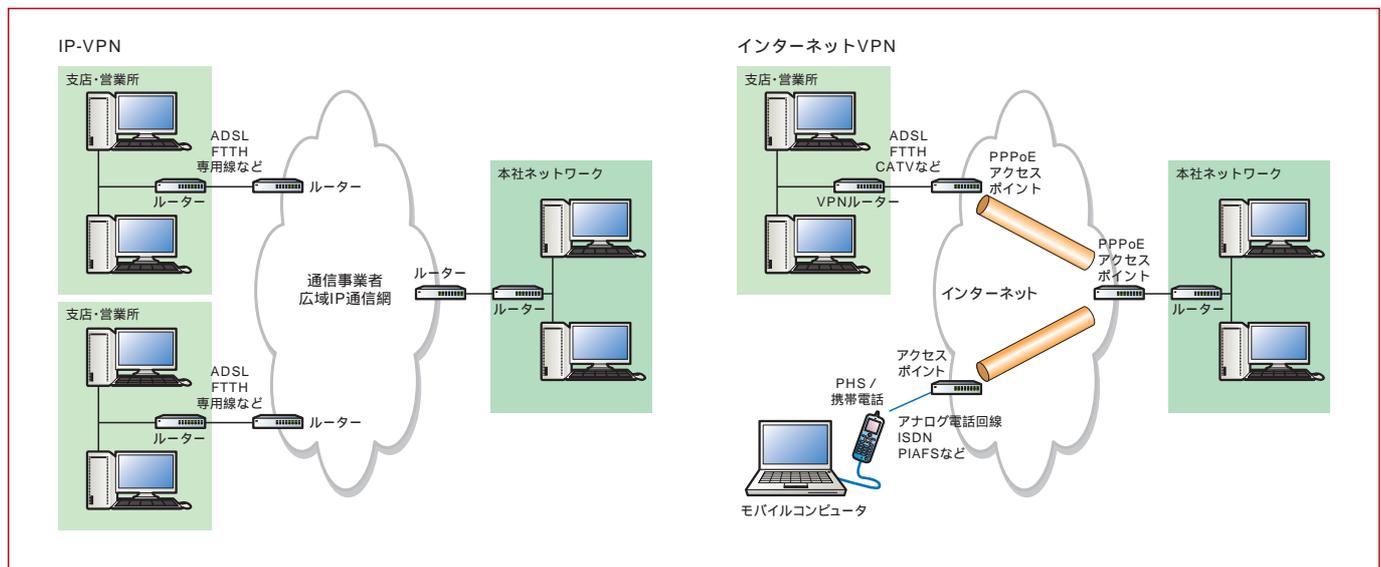


図1 IP-VPNとインターネットVPNの大きな違いは、経路が公衆網か閉域網かという点。コストの差もこの違いから生まれる。

IP-VPNとインターネットVPN という2つのVPN

多少技術的に、VPNという言葉の定義をおさらいしておこう。

VPNというのは「Virtual Private Network」の略で、公衆回線を仮想的な専用回線として利用できるサービスだ。VPNを利用することで、離れた複数のLANを1つのLANであるかのように接続することができる。もともと大企業などが専用線やFR(フレームリレー)などで拠点間を結んでいたニーズをより安価にリプレースするものとして普及してきた。

VPNにはIP-VPNとインターネットVPNの2種類がある。

IP-VPNは通信事業者が保有する閉域IP通信網を経由してデータのやり取りが行われる。IP-VPNサービスには、IP網上にネットワーク同士を直結する仮想専用線を構築する方法と、仮想ルーターを提供する方法がある。インターネットを介さないため、通信品質やセキュリティを向上させることが可能だ。

一方、公開されたインターネット上で実現されるVPNをインターネットVPNと呼ぶ。インターネット経由で離れたネットワーク同士をLANで接続しているのと同様に利用することができる。インターネットを利用するため、回線維持費用が非常に安価で、低コストな運用が可能だ。

インターネットを流れるデータはそのままでは盗聴や改竄などの恐れがあるため、IPsecを使用して通信内容を暗号化して機密性を保持している。IPsecの利用には、VPNルーターという専用の機器を用いる。

両者の違いを一言でいうと、途中でインターネットというオープンな網を通るかどうかだ(図1)。それによって、セキュリティの強度、通信の品質(安定性)、コストが異なってくる。それらを利用目的か

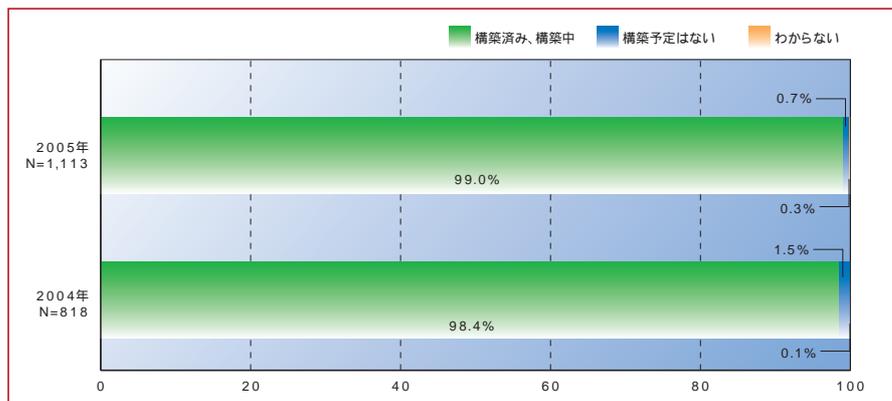


図2 LANの構築有無(2004年-2005年)

出典:『インターネット白書2005』資料3-4-1(©Access Media/impress, 2005)

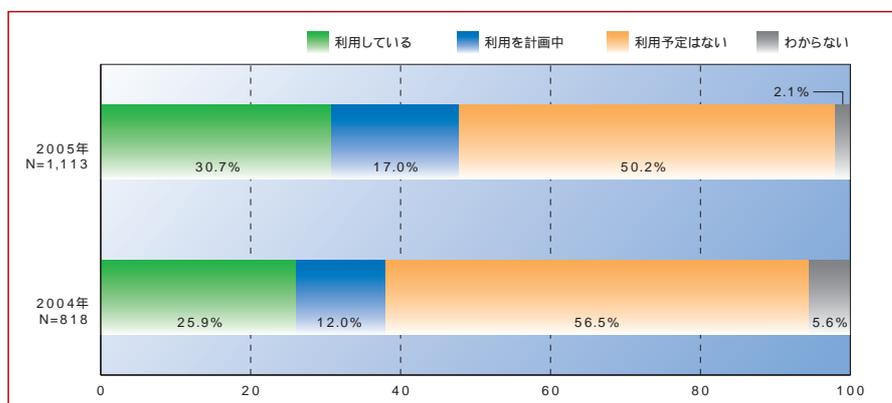


図3 IP-VPNの利用有無(2004年-2005年)

出典:『インターネット白書2005』資料3-2-17(©Access Media/impress, 2005)

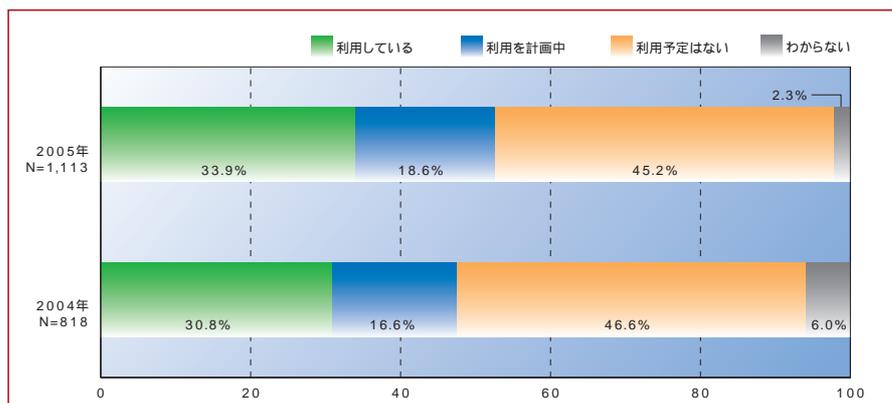


図4 インターネットVPNの利用有無(2004年-2005年)

出典:『インターネット白書2005』資料3-2-19(©Access Media/impress, 2005)

ら勘案して、サービスの選択を行う必要がある。

VPN導入にあたって、考えなくてはならないのは、どこまでの安全性を確保しなくてはならないかという問題と、コストとのバランスだ。

VPNでやりとりされるデータは、機密性の度合いによって利用するサービスを判断することが多い。企業の基幹系のデータや個人情報が行き来する場合には、いかに暗号化されているとはいえ、オープンなインターネットを通るインターネット

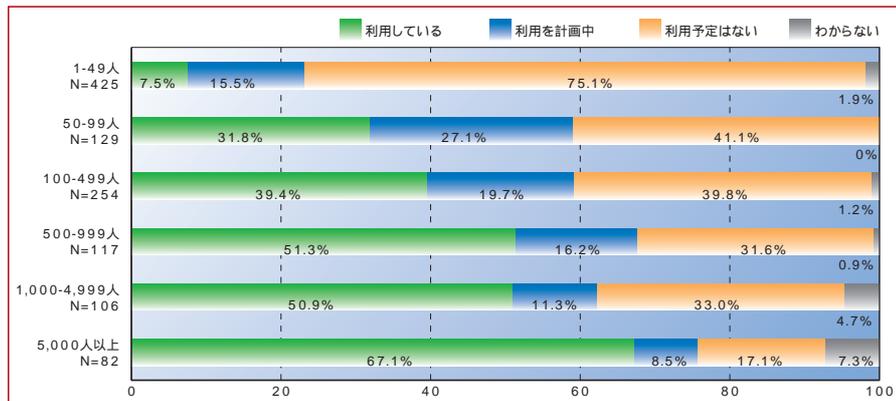


図5 従業員規模別IP-VPNの利用有無
出典：『インターネット白書 2005』資料 3-2-18 (©Access Media/impress, 2005)

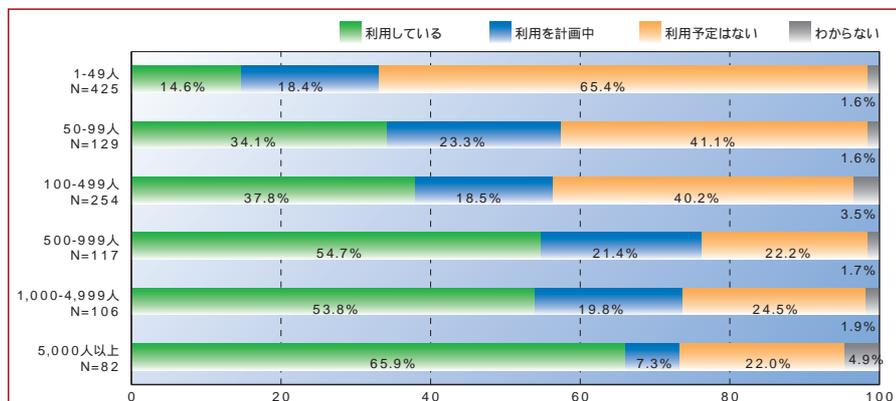


図6 従業員規模別インターネットVPNの利用有無
出典：『インターネット白書 2005』資料 3-2-20 (©Access Media/impress, 2005)

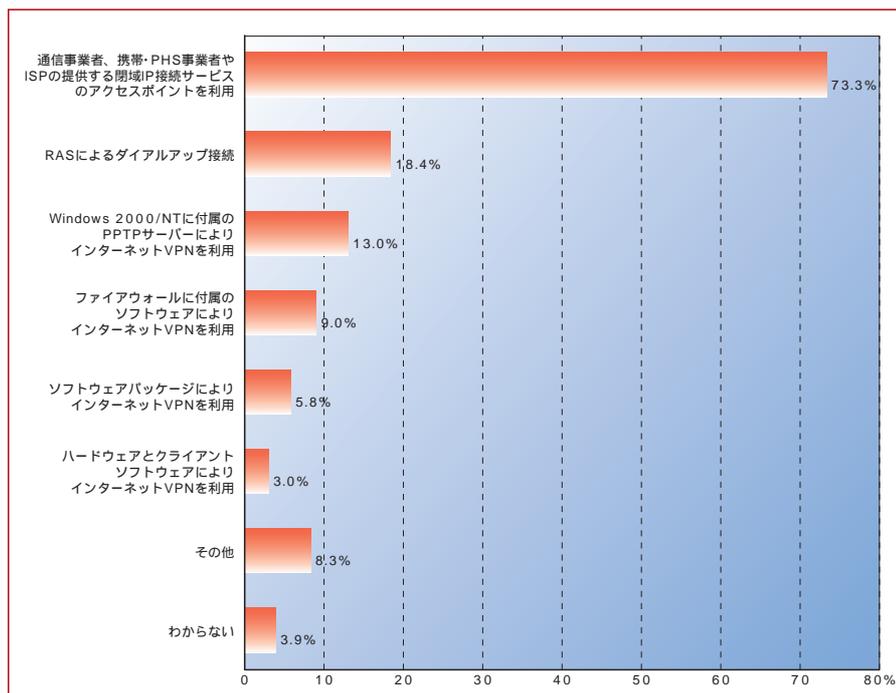


図7 モバイル・リモートアクセスユーザーの社内ネットワーク接続設備(複数回答) N=591
出典：『インターネット白書 2005』資料 3-2-23 (©Access Media/impress, 2005)

VPNは避けたいという企業は多い。逆に、POSや製造業系の発注書など、社外や業界外の人間には関心の薄いデータの場合にはインターネットVPNのコストが選択されることが多いようだ。

新規と乗り換えというVPN導入の2つのアプローチ

VPNサービスを提供している会社に聞いてみると、現在は、新規導入と専用線やFRからの乗り換えは、売り上げ的にはかなり拮抗している状態だそうだ。

専用線などからの乗り換えニーズはコスト面が理由になっているが、新規ニーズに関しては、セキュリティー意識の向上が理由として挙げられる。4月の個人情報保護法施行の影響で5月以降に問い合わせが増えたというVPN業者も多い。昨年から今年にかけて、個人情報流出の報道が相次いだこともあり、自社で保有するデータの通信経路での安全性を求める機運が高まっている。

図3はIP-VPNの利用の有無の推移(『インターネット白書 2005』)、そして図4はインターネットVPNの利用の有無の推移(同)だ。2004年と2005年を比較すると、IP-VPNの利用企業が30.7%と約5%の増加、インターネットVPNの利用企業は2005年で33.9%とIP-VPNより高いが、伸びは約3%にとどまっている。また、2005年時点で、利用予定はないという回答が、IP-VPNで50.2%、インターネットVPNで45.2%と、まだまだ多い。

これには、VPN導入への抵抗感が大きな原因となっていると思われる。しかし、この数字の調査自体が今年4月であり、先ほど挙げた個人情報保護法施行による問い合わせの増加が5月からということを見ると、この数か月でだいぶ状況が変わってしまっていることも推測される。このグラフの数字以上に、VPN導入

の機運は高まってきていると考えるべきだろうし、来年の調査では、驚くほどの伸びを示しているかもしれない。

さて、話を乗り換えて新規導入に戻すと、新規導入の場合、VPNで結ぶ拠点数は1桁の案件が多いそうだ。これは、中堅から中小の企業でのVPN導入が進んでいるということの意味する。

一方の乗り換え需要は、大企業が多数の拠点を結んでいるケースでの採用が多いため、両社の売り上げが拮抗するということは、新規ニーズの伸びが件数的には数倍になっているということになる。実際に日本では中小企業のほうが数は圧倒的に多いのだから、この傾向は今後も続くことが予想される。

図5、図6はIP-VPNとインターネットVPNの従業員規模別の利用の有無だが、規模が大きくなるほどIP-VPNの利用率が上がり、500人以上の企業では半数がすでに使用している。一方、1～49人の企業でのインターネットVPNの導入率はIP-VPNの倍近い数字を示している。

大規模企業ではIP-VPN、中小企業ではインターネットVPNという方向性が見られる。これを新規と乗り換えという形に置き換えてみると、大規模企業 乗り換えニーズ、中堅・中小企業 新規という流れが証明されるのではないだろうか？

VPN導入への抵抗感とワンストップソリューション

新規導入に関していえば、データのセキュリティというニーズはあっても、即VPNの導入に踏み切る企業ばかりではないのは、図3、4の数字からも見て取れる。だが、ここでVPN導入予定がないと答えているすべての企業が安全性を確保すべき通信データを持っていないかというところではないだろう。

そこには、VPNに対する抵抗感が少な

からず存在するに違いない。

VPNの申し込みには時間がかかるとか、ルーターの設定が難しいという意識は、中堅中小企業に多い準管理者(インターネットの面倒は見ているが、専門のネットワーク技術者ではない)には強い。

インターネット並み、社内LAN並みの導入のしやすさが保証されていれば、導入予定の比率は飛躍的に高まるのではないだろうか？

VPNを提供する通信業者サイドでも、この点に気づいている。そこで、最近増加しているのがワンストップソリューションによるVPNの提供だ。回線、網、機器をすべて1社で提供すれば、運用時の障害問い合わせ窓口を一元化でき、復旧体制の迅速化が図れるとともに、導入時の手配や設定の負担を軽減できる。

実際、専用線からIP-VPNに乗り換えてコストを削減しようと考えても、その分、導入・運用で人的リソースを消費してしまえば元の木阿弥である。

VPNニーズが急増する現在、こうしたワンストップソリューションのニーズは、今後も増えていくに違いない。図7は、どんな設備を利用してリモートアクセスしているかのグラフだが、通信事業者やISPの提供するアクセスポイント利用という回答が群を抜いている点に、VPN利用に一元化を求める傾向がやはり読み取れる。サービス選択に当たっては、この人的アウトソーシングの問題は、VPNの料金体系と同様にチェックが必要だろう。

また、ルーターの設定にもGUIを採用する製品が登場するなど、導入ハードルを低くするための企業努力が、今後のVPN普及に向けて見られる。

拡張的な利用と新たなアプリケーションサービス

VPNサービスの選択に当たって、もう1

出展企業一覧

セキュア・インターネットVPN
NTTコミュニケーションズ p.104

どこでもLAN
GMOインターネット p.106

イーサアクセスVPNルーター「RT107e」
ヤマハ p.107

InfoSphere IPインターネットVPNソリューション
NTTコミュニケーションズ p.108

つ考えなくてはならないのが、LANの機能が決して進化を止めているわけではないということだ。無線LANの普及、ホットスポットからのモバイル利用、監視カメラやリモート操作など、LAN機能自体、そしてその応用にはさまざまな発展が考えられる。

VPNはこれらアプリケーションの安全な利用をも担っていく。そうした部分をターゲットに、ソフトのインストールだけで手軽に使えるVPNのASPサービスも登場してきている。

これからは、IP-VPNかインターネットVPNかという選択ではなく、両者の併用も含めてビジネスデータ全体の安全な利用という論点が、VPN選択の道筋になっていくのではないだろうか。

セミナーを終えたら
展示会場で
商品をチェック

Exhibition Hall

ワンランク上の安心を提供する廉価なIP-VPN サービス

セキュア・インターネット VPN

NTTPC コミュニケーションズ

[URL] <http://www.nttpc.co.jp/>

VPNに求められるのは安心とコストのバランスである。NTTPC コミュニケーションズの「セキュア・インターネット VPN」は、信頼できる回線と安定した運用を低価格で提供するIP-VPNサービスだ。

コストメリットと、安心できるVPN環境を求めるなら、「セキュア・インターネットVPN」の検討をお勧めする。

高い信頼性と安定性を実現する 低価格VPNサービス

「セキュア・インターネットVPN」は、名称はインターネットVPNだが、分類としては閉域網を使用したIP-VPNサービスだ。

同サービスは、閉域のビジネス専用IPネットワークとNTT東日本・NTT西日本の地域IP網の利用により、インターネットを一切使用しない、安全な通信環境を実現している。

さらに、ビジネス専用IPネットワークと、地域IP網の接続点を二重化し、1本のフレッツ回線から常に2本の通信経路を確保することで、通信の安定性を高めている。また、ビジネス専用IPネットワーク内のプロバイダルー

でルーティングを行うため、フルメッシュ通信が可能。各拠点からはプロバイダルータとの接続になるため、拠点追加時にも既存拠点の設定変更等は必要ない。

近年、急激に関心が高まっている個人情報保護法等へのセキュリティ対策から、

「インターネットVPNからの乗り換え需要が多い」(NTTPC コミュニケーションズネットワーク事業部VPNソリューション推進室室長の齋藤壽勝氏)とのことだ。

ワンストップで監視・保守までの サービスを提供

「セキュア・インターネットVPN」の特長は、



すべてのサービスがワンストップで提供されていることだ。

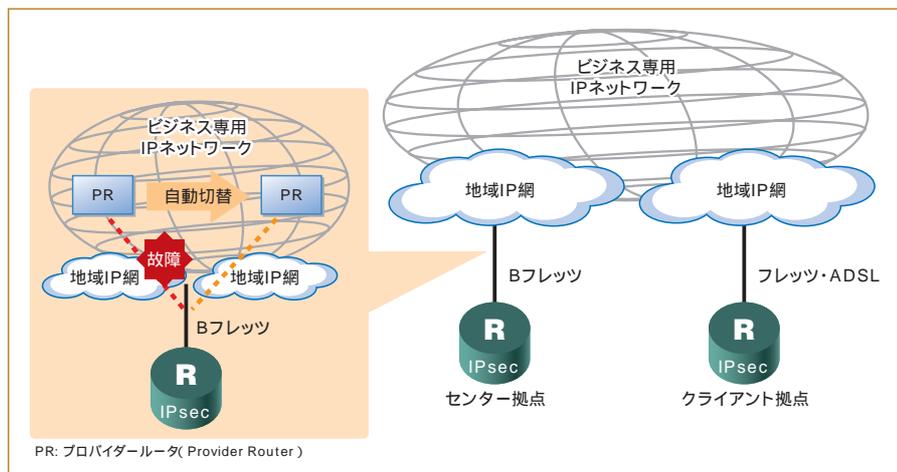
回線と接続装置がバンドルして提供されているため、障害等の発生時に原因を特定すべく、ユーザーが何箇所にも連絡を取る必要はなく、NTTPCの保守窓口にお問い合わせれば、回線や接続機器までを含め、どこに異常があるのかもわかる。また、常時Pingによる正常性監視を行っているため、障害の発生時には、自動でユーザーにメール連絡がいく仕組みになっている。

中小企業で、専門のネットワーク技術者が不在の場合等には、ネットワーク設計やネットワーク情報管理の代行も請け負っている。設計・運用・管理のすべてを一元化しているため、導入の不安は大幅に削減される。

さらなる高付加価値サービスを展開

現在、「セキュア・インターネットVPN」に各種のアプリケーションをバンドルして高付加価値化を計画中だ。予定されているのは、内線電話、グループウェア、監視カメラ、無線LANなどだ。これらの選択肢が増えることで、潜在的なニーズの掘り起しがいっそう進むのではと、前出齋藤氏は期待を寄せている。

また、10月3日には「セキュア・インターネットVPN」の専用ウェブサイトのオープンが予定されている。サービスの詳細が紹介されるほか、企業での利用事例などのコンテンツも掲載予定だ。このサイトではオンライン申し込みも可能で、特典として初期費用が半額になる。オープン時にはアクセスをお勧めする。



セキュア・インターネットVPNのサービス構成図

セキュア・インターネットVPN料金表

種別	サービスタイプ	月額料金	初期費用
フレッツ・ADSLご利用の場合	-	11,550円(12,127円)	22,000円(23,100円)
Bフレッツご利用の場合	ベーシック	23,200円(24,360円)	35,000円(36,750円)
	ベーシック以外	18,300円(19,215円)	

問い合わせ先
株式会社NTTPCコミュニケーションズ
03-5212-1380

ASP サービスではじめる軽快・手軽な VPN

GMO どこでも LAN

GMO インターネット株式会社

[URL] <http://www.dokodemolan.com/>

VPNの導入をためらう理由としてよく上げられるのが、導入の難しさだ。しかし、GMOインターネットの「GMO どこでも LAN」は、業界初のASP型VPNサービス。専用知識や機器の購入の必要はなく、専用ソフトをインストールするだけで導入できる。セキュリティニーズがますます高まる現在、低価格で手軽にはじめられる安全・安心なVPN通信の導入を検討されてはいかがだろうか。

業界初のASP型VPNサービス

本社支社間の安全なデータ共有を考えた場合、VPN(仮想LAN)の導入は最初の選択肢だが、まだ二の足を踏んでいる企業は多い。導入と運用が難しいというのがその理由だ。ルータの購入や、各種設定、利用者情報の更新など、まさに新しいネットワークを1つ敷設するくらいの労力がかかるのではと想像すると、確かに導入をためらってしまうだろう。

しかし、「GMO どこでも LAN」なら、専用ソフトをクライアント(VPNを利用するマシン)にインストールするだけでVPNを使用できるようになる。しかも、ASP型のサービスなので、料金的にもリーズナブルな上、運用管理に特別な知識や能力は必要ない。

ワンランク上のセキュリティを確保した通信を考えると、ハードルの低い非常に魅力的な

サービスと言えるだろう。

インターネットにつながる場所ならどこからでも安全に接続可能

「GMO どこでも LAN」の最大の特徴は、インターネットに接続できる環境さえあれば、社外からでも社内のLANにつながっているのと同じように、データの授受ができる点だ。

ユーザーは「GMO どこでも LAN」を利用することで、ファイルやプリンタの共有はもちろん、自宅から社内のマシンをリモートコントロールで操作したり、社内のグループウェアの閲覧更新を外部から行ったりなど、幅広いニーズを満たせるようになる。さらに、これからますます普及が見込まれる公衆無線LANサービスと併用すれば、いっそう使い勝手が向上する。



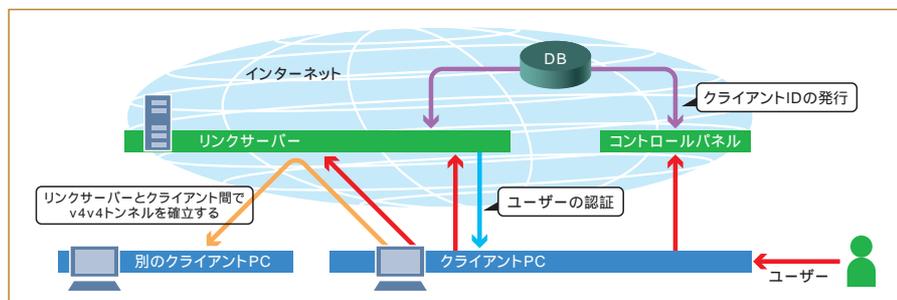
この便利で安全な接続を実現するために、専用ソフトは各クライアントに実際のIPアドレスとは別に、「GMO どこでも LAN」用のIPアドレスを割り当てる。このIPアドレスで、LANのHUBのような働きをするリンクサーバーにアクセス、パスワードとIDでの認証を受けた上で接続する。「GMO どこでも LAN」をインストールしたPC同士がリンクサーバーを経由して仮想トンネルを作り、128bitSSLで暗号化された安全な通信が可能になるのだ。

導入もコストも手軽

「GMO どこでも LAN」をサイト上から申し込むと、管理者IDとパスワードが発行されるので、利用するグループ(HUB)の管理者がサイト上の「コントロールパネル」から、グループ内個々のユーザーIDとパスワードを発行する。各人はそのIDでログインして、クライアントツールをダウンロードしインストールすることで利用が可能になる。難しい設定は必要ない。

料金は、5ユーザーが1グループとなって利用する場合、初期費用は5,250円、月額費用は3,150円からと、個人でも利用しやすい価格になっている。利用可能OSは、Windows 2000 ServicePack4、Windows XP ServicePack1 Windows Server 2003以上。

なお、現在、5～20アカウントまで、「GMO どこでも LAN」サービスを無料で20日間体験できる「無料トライアル」を実施中だ。この機会にぜひ、「GMO どこでも LAN」の魅力を感じてほしい。



セキュア・インターネットVPNのサービス構成図

スタンダード HUB プラン

初期費用	5,000円(税込5,250円)		
月額費用(お申込みから1ヶ月無料)			
グループ(HUB)	アカウントライセンス料金		月額料金合計
2,000円 (税込2,100円)	5 アカウント	1,000円(税込1,050円)	3,000円(税込3,150円)
	10 アカウント	1,800円(税込1,890円)	3,800円(税込3,990円)
	15 アカウント	2,400円(税込2,520円)	4,400円(税込4,620円)
	20 アカウント	2,800円(税込2,940円)	4,800円(税込5,040円)

40アカウント以上の利用にはビッグHUBプランが用意されている

問い合わせ先
GMO どこでも LAN お客様センター
TEL:03-5456-2706
(平日 10:00 ~ 19:00)
e-mail:info@dokodemolan.com

「使いやすさ」と「わかりやすさ」を追求した高性能 VPN ルーター

イーサアクセス VPN ルーター「RT107e」

ヤマハ株式会社

[URL] <http://netvolante.jp/products/rt107e/index.html>



VPN 導入にあたってのハードルのひとつが、VPN ルーターの設定だ。中小企業など専任のネットワーク管理者がいないケースでは設定に苦労するという話をよく聞く。ヤマハのイーサアクセス VPN ルーター「RT107e」は、Web ブラウザーからのルーター設定を実現。ネットワーク初心者でも簡単に設定可能なばかりでなく、VPN スループット最大 50Mbit/s を実現する高性能ルーターだ。

「やさしく安全な VPN」を実現する VPN ルーター「RT107e」

VPN 導入のハードルとなっていることのひとつに、VPN ルーター設定の難しさが挙げられる。特に中小企業や、中小規模の支社・支店など、専任のネットワーク技術者がいない場合には、設定に苦労するケースが多かった。また、ルーターの異常などもネットワーク機器に慣れていないとわかりにくく、メンテナンスなどに時間を割かれることから、VPN の導入は難しいという先入観を抱いている企業も少なくなかった。この 10 月に発売されるヤマハの VPN ルーター「RT107e」は、そんな先入観を払拭してくれる「使いやすさ」と「わかりやすさ」にこだわった製品だ。

最大の特徴は IPsec による VPN の設定を Web ブラウザーを利用して GUI ベースで行うことが可能な点だ。「かんたん設定ページ」を

開いて、9 ステップの入力で設定作業を完了できる。IPsec 導入の困難さに二の足を踏んでいた中規模のネットワークでも、VPN による安全な通信が可能になる。

メンテナンスも難しくない 親切設計

「RT107e」の使いやすさは、導入時だけのものではない。前面部には「STATUS ランプ」を搭載し、監視機能により回線状態と VPN 接続先の機器に異常を発見すると点灯して知らせてくれる。さらに、VPN 接続先のサーバーまでの経路を指定することによって、ネットワークの障害箇所が LAN 側か WAN 側かの特定も可能で、迅速な復旧が可能となる。

また、ファームウェアの更新も、背面の「DOWNLOAD ボタン」を押すだけで、ヤマハサイトもしくは任意のサーバーで公開されて

いるファームウェアに更新することが可能だ。

最大 50Mbit/s の VPN スループットを 実現するハイパフォーマンス

このように、使いやすさ、わかりやすさにこだわった「RT107e」だが、VPN ルーターとしてのパフォーマンスも高い。LAN ポート×4 (スイッチングハブ)、WAN ポート×1 という中小規模のネットワーク構築に無駄のない構成で、最大 VPN 設定数は 6。高速 CPU を搭載し、IPsec のハードウェア処理を実現。スループットは最大 100Mbit/s、VPN スループットも最大 50Mbit/s と、通信にストレスを感じさせない。暗号化も DES/3DES に加え、AES のハードウェア処理に対応。ファイアウォール機能の IPv6 化も果たしている。

また、小規模ネットワークの構築に利用されることが増加している NTT 東日本の「フレッツ・グループアクセス」、NTT 西日本の「フレッツ・グループ」向けに、その際利用される IPsec トンネルの高速化や、IPIP ファストパスによる IPIP トンネルの高速化を実現している。

すでに、ヤマハルーターの実績のある企業でも、「RT107e」は他のヤマハ VPN ルーターとの親和性が高いため、拠点の規模や必要帯域、回線・機器の冗長性などを勘案しての機器の組み合わせの選択肢が広がったといえるだろう。

希望小売価格(税込)は 71,400 円。中規模以下のネット構築、支社などの拠点でに優れたコストパフォーマンスを持つ製品といえる。



Web ブラウザーから、IPsec の VPN 設定が GUI で簡単に実行できる



本体前面 Power ランプ隣の「STATUS ランプ」で障害などをすばやく察知



本体背面の「DOWNLOAD ボタン」で、ファームウェアの更新も簡単に

問い合わせ先

ヤマハ株式会社
ヤマハルーターお客様ご相談センター
TEL : 053-478-2806
FAX : 053-460-3489
URL : <http://www.yamaha.co.jp/router/>

ワンストップのインターネットVPNソリューション

InfoSphere IP インターネットVPNソリューション

NTTPC コミュニケーションズ

[URL] <http://www.sphere.ne.jp/>

企業の拠点間ネットワークの構築にあたって、コストにこだわり、必要な「安心」を達成したいのであれば、低価格で導入が容易、かつ手間のかからない運用が可能なNTTPCコミュニケーションズの「InfoSphere IP インターネットVPNソリューション」を選択肢として考えてみるべきだろう。

NTT東日本・NTT西日本の「フレッツ」に対応した低コストVPNサービス

「InfoSphere IP インターネットVPNソリューション」は、NTTPCコミュニケーションズが提供する低コストのインターネットVPNサービスだ。NTT東日本・NTT西日本の「フレッツ」アクセスサービスに対応した、同社の提供するインターネット接続サービス「InfoSphere IPフレッツ接続サービス」と、VPNに必要な機器の設定、設置、保守までを提供する「IPSecルーターサービス」を組み合わせ提供される。

共有ネットワークとしてインターネットを利用するため、コストメリットがあると同時に、

IPSecによる暗号化とトンネリングにより、安全な通信が可能である。1拠点あたりのIPSecルーターの利用料金は月額3,675円(税込)からと、コスト的な導入のハードルは大変低くなっている。

コストと安全レベルのベストバランス

VPNを導入したからといって、新たに通信、伝達すべきビジネス情報が登場するわけではない。VPNのニーズというのは、社内に元からある、拠点間の情報・データ伝達の方法をどう安全に作り変えていくかというものだ。

そこで選択の基準になってくるのが、どん



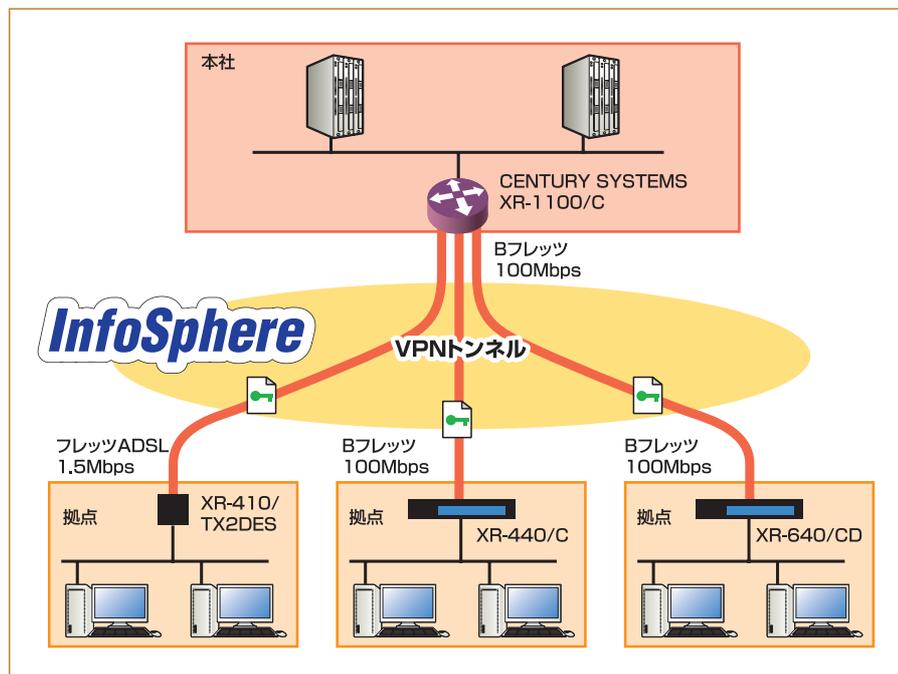
なレベルの安全性を達成したいかという点と、それを達成するためのコストということになる。コストは直接的なコストと、業務的に間接費(手間)が発生するならその分も考えなくてはならない。

従来であれば障害発生時にはプロバイダやアクセスライン提供者、機器ベンダなどにそれぞれ問い合わせを行い、故障箇所の特定をする必要があった。しかし、「InfoSphere IP」の「一元故障受付(無料オプション)」に申し込むと、InfoSphere設備故障受付に電話をするだけで、一元的な故障申告を済ますことができ、故障箇所の切り分けや、「フレッツ」アクセスサービス故障時のNTT東日本・NTT西日本への対応をユーザー企業自ら行う必要がなくなるため、運用負荷がかからない。ネットワークの専任担当がいなくても安心で、人的リソースの削減が可能だ。

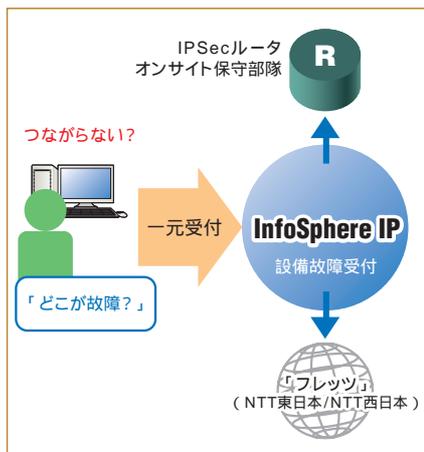
少数拠点を結び、はじめてのVPN構築にも最適

同サービスのユーザーでは、フランチャイズなど拠点数が100を超える企業もあるが、大半は10拠点以内、多くとも20拠点までの企業だ。なかでも、最近増加しているのが、3～5拠点といった、比較的少数の拠点を結びVPNの構築だ。

「業種的には製造業での導入が多いですね。発注書などの送付に利用されます」(NTTPCコミュニケーションズ ネットワーク事業部ネットワーク営業部第1ネットワーク営業担当 林 良彦氏)



「InfoSphere IP インターネットVPNソリューション」サービス提供イメージ



障害時間合せの一元化が可能に

インターネットVPNは、インターネット網内でのトンネリングと暗号化により高いセキュリティを実現しているが、オープンなネットワークを介しているという部分で、基幹情報や個人情報のやりとりにはなかなか抵抗があるようだ。それらは専用線やIP-VPNなどに役割を譲ることになる。

一方、インターネットVPNの主な利用は先に挙げた発注書やPOSデータなどのやり取りになる。

新規ユーザーの導入目的を見ると、それまでファクスやISDNでやりとりされていたデータを常時接続の「フレッツ」+ IPsecによるイ



NTTPC コミュニケーションズ
ネットワーク事業部ネットワーク営業部
第1ネットワーク営業担当 林 良彦氏

ンターネットのトンネリングでビジネスデータ流通のボトルネックをなくしたいというケースが多い。

「個人情報保護法などの影響もあって、お問合せお申込みは多いです。常時接続で、通信費が定額となることも、予算上メリットになっているようです（同事業部第1ネットワーク営業担当 吉田 敦氏）

一方乗り換えのニーズは、従来の専用線やFRなどから、コスト面での引き合いが多い。データの種類による安全性の程度をユーザーサイドで把握し、必要なだけの安全を確保できる選択肢として採用が検討されているとい



NTTPC コミュニケーションズ
ネットワーク事業部ネットワーク営業部
第1ネットワーク営業担当 吉田 敦氏

うことだろう。

既存ユーザーの拠点の増減にも すばやく柔軟に対応

最近の傾向として、すでに「InfoSphere IP インターネットVPNソリューション」を導入済みユーザーの、拠点の統廃合による追加というケースも多い。そんな場合にも、「InfoSphere IP インターネットVPNソリューション」なら、NTTPC コミュニケーションズサイドでワンストップで処理が可能なので、話が早い。新規導入する拠点についても、「フレッツ」を申し込んで開通するまでの間には、利用が可能になる。

また、「フレッツ」アクセスサービスのメイン回線が不調になったときのために、「ISDN バックアップルータサービス」もオプションで用意されている。ネットワーク環境により、安定性を必要とする場合には、検討すべきサービスだろう。

なお、現在、InfoSphereの10周年を記念して、10月31日まで、Bフレッツの工事費無料やフレッツ接続サービス月額基本料6ヶ月間無料などの特典が選択できる「選べて納得福袋キャンペーン」を実施している。

問い合わせ先

株式会社NTTPC コミュニケーションズ
InfoSphere インフォメーションセンター

☎0120-85-4588
(月～金曜日9:30～18:00、祝日を除く)

InfoSphere IP フレッツ接続サービス料金表

InfoSphere IP フレッツ接続サービス IP1 タイプ

コース	タイプ	初期費用	月額基本料
Bフレッツ ビジネスコース	IP1 タイプ	2,940円	78,750円
Bフレッツ ベーシックコース			24,675円
Bフレッツ ファミリーコース			9,975円
フレッツ・ADSLコース			7,035円

IPsec ルータサービス

ルータ機種名	タイプ1(保守:平日9時～17時)		タイプ2(保守:24時間365日)	
	初期費用	月額使用料	初期費用	月額使用料
XR-410/TX2	57,750円	3,675円	57,750円	4,410円
XR-410/TX2DES		5,250円		6,300円
XR-440/C		5,775円		6,825円
XR-640/CD		8,400円		9,450円
XR-410/TX2-L2		5,250円		6,300円
XR-640/CD-L2		9,450円		10,500円
XR-1100/C	105,000円	31,500円	105,000円	32,550円
XR-1100/CT		42,000円		43,050円

ISDN バックアップルータサービス

ルータ機種名	タイプ1(保守:平日9時～17時)		タイプ2(保守:24時間365日)	
	初期費用	月額使用料	初期費用	月額使用料
CentreCOM AR410 V2	57,750円	9,450円	57,750円	11,550円



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp